



## 出

雲弁を意識し始めたのは、小学生の時だった。祖父母から親戚、両親もかなりの使い手だったが、ぼくが飽かずおもしろく思ったのは『出雲の方言』（漢東種一郎著）という一冊の本だった。出版年がちょうどぼくの生まれ年である。ここ数年、蔵書のほとんどを処分したが、これだけは捨てる気になれな  
いままだ。一つの方言をテーマに意味を解説し、会話形式で用例が挙げてある。音読していると母がゲラゲラ笑うので、それが繰り返し読む動機づけになった。それで知らず知らずのうちに知識を蓄えた。あくまで知識として。だから誰もが当たり前に使う「しちちよう（している）」などは意識せずとも出てくるが、出雲弁独自の語彙や訛りは通常使っていないつもりである、自分では。

小学生のころはまだ子どもたちの会話の中に出雲弁はかなり生き残っていた。例えばじゃんけんのことをぼくらは「やつき」と言っていた。「じゃんけんぼん」は「やつきつき」「じゃんけん決めてよう」は「やつきで決めらこい」が常用だった。しかし、だれもがテレビに夢中だった時代、いつの間にかやつきは使わなくなっていく。ほかの多くの出雲弁とともに。しかし、生まれたときから長らく大量に浴びたおかげでしゃべろうと思えばしゃべれるのだ。

高校生の時、よくいつしよに遊んでいた男がある

き、「出雲弁保存会みたいなお前のお母さんが」と言うのではととした。そんなふうには母を見たことがなかったからである。ぼくにとっては母や父の言葉であつて、それが出雲弁であるかどうかなど意識することなどまったくなかった。やつはそう言った後、

「けんずー、けんずー」

と母がぼくを呼ぶのを真似てケラケラと笑った。気の合う男だったのでバカにされたとは思わなかった。むしろ「ずー」の音はそうではない、「ずー」と「じー」の中間の音なのだ、と発音のずれの方が気になってしまった。くだらないのでわざわざ指摘もしなかったが、こいつには到底発音できないだろうと思った。

しゃべろうと思えばしゃべれるけれど、日常生活でわざわざ出雲弁を使つてしゃべる機会などありはしない。だからぼくの使う言葉はほとんど共通語になっているだろうと思つていたがそうでもないらしい。二十年ほど前だが、木次乳業の佐藤忠吉翁の評伝を森まゆみさんが書かれたとき、忠吉翁の出雲弁の校正を頼まれた。まったくの共通語にするのも味気ないがさりとてそのままではわかりにくい。その調整が主な仕事だった。依頼者には、ぼくの言葉に出雲弁が聞き取れたのだった。

老い老いに  
木幡智恵美

3

さて、「夕焼け通信」という週刊通信が始まった一九九三年は、どんな年だったのだろうか。先月、南海トラフ臨時情報が気象庁から出され、国民の多くが自粛モードになった。年々大きな地震が起きる頻度が増していると感じるこの頃だが、この年は北海道南西沖でマグニチュード七・八の地震が起き、奥尻島では火災と津波により死者二百二人、行方不明者二十八人と大きな被害が出た。ゼネコン汚職が次々に発覚したのもこの年だ。あとは、細川連立内閣が発足し、浩宮皇太子が小和田雅子さんと結婚している。夕焼け通信の記事では、Aさんが書かれた文章の中に、「冷夏」という文字があり、よくよく思い出してみると、あの年は梅雨が長く続き日照不足で、平均気温が例年より二〜三度低くなり、全国的な米不足に陥つたのだった。このところ、いつ見てもスーパーの米コーナーががら空きで、米不足とか価格高騰が懸念されている。もともと端境期に当たる時季の上、外国人観光客が増えたことや地震や台風への備えによる買い占めも原因となつているようだ。が、この年の米不足は「平成の米騒動」とも言われるほど深刻なもので、政府の要請を受けいち早くタイから米が輸入された。タイ米は細長く、粘り気がなくパサパサした米だ。焼き飯にすればよいけど、おむすびには適さなかった覚えがある。

やはり、Aさんの文章から思い出したことがある。学校現場が月一回第二土曜日休みになったのだ。今でこそ週休二日が当たり前になっているが、三十年前までは土曜日が半ドン（今や死語。ドンタクは休日で、半分休みのこと）だった。一九九二年九月に漸く学校現場にスズメの涙ほど（Aさんの表現による）休みができた。大手企業、銀行、郵便局、国、県、市と順々に週休二日となつていったのに、学校現場はやつと月一回。Aさんは、「何故外の公務員が週休二日といわれるのに学校だけは五日制と言われるのだろうか」と苦言を呈している。その後、段階的に土曜休が増え、一九九五年四月から月に二回となり、二〇〇二年四月から完全週五日制となった。約十年かけてようやく週休二日制となつたわけだ。学校現場は何もかもが遅れてやってくることは常々感じていたことではあるが。

30代フリーター パレスチナ自治区のガザでポリオの感染が広がりましたが今月初め、ワクチン接種のために戦闘が一時休止された、と報じられた（9月2日朝日新聞朝刊）。戦争という災禍が感染症というもうひとつの災禍によつて停止するさまは、この世界の過酷な成り立ちを告げているようだ。

年金生活者 感染症の拡大が戦争のゆくえを左右した例として、第1次世界大戦下での「スペイン風邪」の流行がある。両陣営ともに兵士の半数以上がインフルエンザに感染したため、戦争継続が困難になり、終結が早まったとされる。ひとつの災禍を止めるにはもうひとつの災禍が必要だと思えてくるほどだ。同時に、そこに自然の圧倒的な力を感じないわけにはいかない。

カントは自然を「偉大な技巧家」「諸物の巧みな造り手」と呼んだ（『永遠平和のために』宇都宮芳明訳）。その自然が「戦争によつて、人間を多かれ少なかれ法的関係に立ち入らせるように強制した」と述べ、「永

遠平和の保証」を与えるのはこの「偉大な技巧家」だとしている（同）。ひとつの災禍をもうひとつの災禍が止めるどころの話ではない。戦争を止めるのは戦争そのものだと言っている。

30代 悪を止めるのは悪だと。善では悪を止められないのか。

年金 同じころ、イスラエルでは、ガザへの攻撃をやめない政府に対し、ハマスとの停戦合意を急ぐよう求める大規模なデモが各地に広がった、と報じられた（9月3日朝日新聞朝刊）。イスラエル側の人質6人が遺体で見えられ、早く合意していれば助かったのに、とネタニヤフ政権に怒りの矛先が向けられた。

6人の人質はイスラエル軍に見えられ、軍到着の直前にハマ스에殺害されたとみられるとも伝えられている（同）。それを知った多くのイスラエル国民はハマ스에怒りを募らせ、「やつらとはもう交渉できない」「必ず報復すべきだ」と考えたに違いない。だが、停戦と人質解放をめぐる交渉が停

滞したまま進まず、さらに人質の命が失われる危険があることへの懸念のほがそれを上回った。デモはそれを示している。

ハマスのしたこと、しそうなことを糾弾し、報いを受けさせることよりも、人質を殺させないこと、その命を救うことを優先する世論がイスラエルで多数を占めつつあることをうかがわせる出来事と言っている。今世紀初めに吉本隆明が提起した「人間の『存在の倫理』」という考えに従うなら、いまイスラエル国民のあいだに広がっているのはこの「倫理」と言うことができる。

30代 バイデンはハマ스에「犯罪の代償を払わせる」との声明を発表したと報じられている（同）。

年金 ハマスはおのれのしたことへの報いを受けるべきだというその考えは、吉本の言い方をまねて名づければ、「人間の『機能の倫理』」と呼ぶことができる。ハマスの「働き」を糾弾するものだからだ。

これに対し、「人間の『存在の倫理』」は、人間が何をしたか、何をし得るかという「働き」ではなく、人間の存在そのものに焦点を当て、それを肯定する倫理と言うことができる。

「攻撃」には「報復」と、「機能」に対し「機能」で返す考え方は、死のループを形成する。そこから脱するには、人間の「存在」そのものを倫理の根底におくほかない。イスラエル国民がそう考え始めている兆候を、戦闘開始以来最大規模というデモに見ることが

30代 ウクライナ戦争にはそんな動きは見られない。

年金 ウクライナの調査会社「キウウ国際社会学研究所」が今年5月に実施した世論調査によると、「できるだけ早く和平を達成し独立を維持するため領土の一部を放棄してもいい」との回答が32%あり、2月に比べると6ポイント増加した（7月24日NHK NEWS WEB）。これに対し、「いかなる状況でも領土を放棄すべきでない」と

の回答は55%と、依然として過半数を占めているが、2月に比べると10ポイント減少している。今後も「領土の一部を放棄しても」が増え、「放棄すべきでない」が減って行く予想され、この戦争はウクライナが領土の一部を放棄して終わる可能性が最も高い。

ニュース日記 937  
中村 礼治

## 正義と人命

ロシアの侵略行為はいささかも正当化されないにもかかわらず、ウクライナ国民の中に「領土の一部を放棄しても」という考えが少しずつはいえ増えているのは、「正義」よりも「人命」を重んじる世論が徐々に広がりがつつあることを示している。それはハマスとの戦闘で「報復」よりも「人命」を重視したイスラエルの世論と相似形をなしている。

イスラエル側の人質の遺体がかし戦闘の初期の段階で見つかっていたら、「停戦」ではなく「報復」を求めるデモが広がっていたかもしれない。

今そうならないのは、吉本の言う「人間の『存在の倫理』」が国民のあいだに広がってきた結果と理解することが出来る。それは「する」の土台となる「ある」を重視する倫理であり、私たちの慣れ親しんだ言い方をするなら「命あつての物種」に近いだろう。時間がイスラエル国民をそこに導いたとすれば、ウクライナ国民も時間をかけて同様の道をたどる可能性がある。